



Lesson 9.

リサーチの仕方



Contents:

Section 1. リサーチの種類

Section 2. 日常的に行うリサーチ

Section 3. 調べる前にすること

Section 4. 資料集め

Section 5. 調べた後ですること

SECTION 1. リサーチの種類

このレッスンでは、ディベートで扱われる論題について、知識を得る方法を説明します。ディベートで使える知識を集めるには、以下の3種類があります。

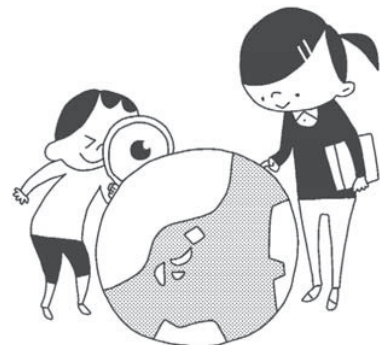
○ ディベートのためのリサーチの種類

- (1) 練習試合をしたり、大会の試合を見学することで知る。
- (2) 新聞・雑誌、テレビ、インターネット、大学の授業などで日常的に知る。
- (3) 興味を持ったトピックを、意識的に調べる。

まず、論題に関する知識を得るために、ある意味最も効率的なのは、誰か経験を積んだディベーターの試合を見ることです。大会などで、難しい論題を与えられた先輩ディベーターがどう戦うか観戦して、上手な説明や、有効な具体例をメモしておきます。

その内容をそのまま、自分が試合をする時に使うのは倫理上問題がありますが、自分なりにさらにアレンジして使ってみて下さい。真似るべきところは真似ることは、まだ初心者と中級者の境界にいるディベーターにとって、大変参考になります。試合のメモを大切に保存しておき、試合で再利用しているディベーターは、上級者でも案外います。ただし、試合で語られた内容を使いまわすだけでは、新しい話題についての論題が与えられた場合に、対応できません。その為に、日頃からリサーチをしておく必要があります。

2 つ目には、日常的に時事問題について関心を持ち、情報を蓄えておく方法があります。そして3 番目の方法として、特定の論題について文献などを利用して集中的にリサーチを行う事があります。本レッスンでは、まず日常的なリサーチの方法について説明した後に、特定の論題についてのリサーチ方法を説明します。



SECTION 2. 日常的に行うリサーチ

○ 日常的に目にする情報源(1) 新聞

- (1) 日本語の新聞 (全国紙であればどれでも良いと思います)
- (2) 英字新聞 (高校生の間は Asahi Weekly などの週刊紙が良いと思います。
帰国生の方は Daily Yomiuri を購読し、慣れたら International Herald Tribune に移して下さい)

それではまず、日常的なリサーチで使える資料について、種類ごとに紹介します。とりあえずは、新聞を毎日読んで下さい。日本語の新聞で構いません。社説と、特集記事が特に参考になります。ディベートの論題になりそうな事件や出来事は無いかな、探しながら読んで下さい。

○ 日常的に目にする情報源(2) 雑誌

- (1) 日本語の一般向け週刊誌：
「AERA」「日本語版 Newsweek」「クーリエ・ジャポン (隔週刊です)」
- (2) 日本語の経済週刊誌：
「週刊日経ビジネス」「週刊東洋経済」「週刊ダイヤモンド」
- (3) 英語の雑誌：
“The Economist” “Foreign Affairs”

これら雑誌は、購読する必要は特にありません。図書室や図書館で手に取り、面白そうな記事だけ読めば十分です。働く女性が主なターゲットの雑誌ですが、AERA が内容的に穏当なものだと思います。また、サブプライム問題や、中東の政府系金融機関の影響など経済の話題について知りたい場合は、上で挙げた経済週刊誌の特集記事を探してみてください。

帰国生向けに英語の雑誌を紹介すれば、週刊の The Economist 紙と、2 カ月に 1 度出る “Foreign Affairs” が、ディベートのトピックに深くかかわる記事を含んでいます。それぞれ英語の表現が難しく、全ての記事を読もうとせずに、興味のある物だけ選んで読んで下さい。

○ 日常的に目にする情報源(3) テレビ番組

(1) 毎日やっている番組

「クローズアップ現代+」：平日 22:00～22:25 NHK 総合

「時論・公論」：平日 23:40～23:50 NHK 総合

(2) 時々やっている番組

「NHK スペシャル」、「ETV 特集」、その他主に NHK の特集番組

これらテレビ番組の内、特に「時論・公論」がディベーターにはお勧めです。毎日 10 分間、最新の話題について、NHK の解説委員が分かりやすく説明してくれます。時論公論の原稿、資料は NHK のウェブサイト上でも公開されています。

○ 日常的に目にする情報源(4) インターネット

・ CNN News 10 (<https://edition.cnn.com/cnn10>)

アメリカの CNN が配信していた高校生向けのニュース動画がリニューアルされ、海外の英語学習者を主な視聴者とする番へと数年前に変わりました。月曜～金曜まで毎日配信され、サイトにはスクリプトも掲載されています。

・ NBC Nightly News (<https://www.nbcnews.com/nightly-news>)

アメリカで有数の視聴者数を誇る、平日に毎日放送されている 30 分のニュース番組のネット配信です。

英検で 2 級以上を持っている人であれば、CNN News 10 は半年ほど聞き続ければ内容の半分から 7 割ほど聞き取れるようになると思います（リサーチのためよりも、英語の勉強としてお勧めです）。

以上で紹介した新聞、雑誌、そしてテレビ番組に加えて、高校あるいは大学での授業からもディベートで使える知識を得ることが出来ます。特に「現代社会」は、ディベーターにとって楽しい授業だと思います。

参考： 各新聞と雑誌の編集方針の違い（2004年頃の話）

よく知られている通り、新聞社や出版社には独自の編集方針があり、各社の社説や特集記事を読む上ではそれを踏まえておけば、より批判的に主張を捉える事が出来ます。例えばアメリカの新聞では、New York Times(International Herald Tribune はこの新聞の国際版です) は民主党寄り、Wall Street Journal が共和党寄りということが広く知られています。

日本のメディアの編集方針の違いを理解する上では、旧来の「左 vs. 右」という対立軸に代わって、冷戦後の現在では「リベラル vs. 保守」という軸が参考になります。以下では、（小泉純一郎さんが首相であった 2004 年当時の）政党・派閥間の大まかなスタンスと合わせて、各社の編集方針を示しておきます（あくまで大まかな、一般的にも当時認められていた特徴づけです）。もし興味があれば、何か大きな事件があった際に、図書館に行って各新聞の一面記事と社説を読み比べてみて下さい。色々と、面白い発見があると思います。

図 1. 政党・派閥間におけるスタンスの違い（2004 年当時）

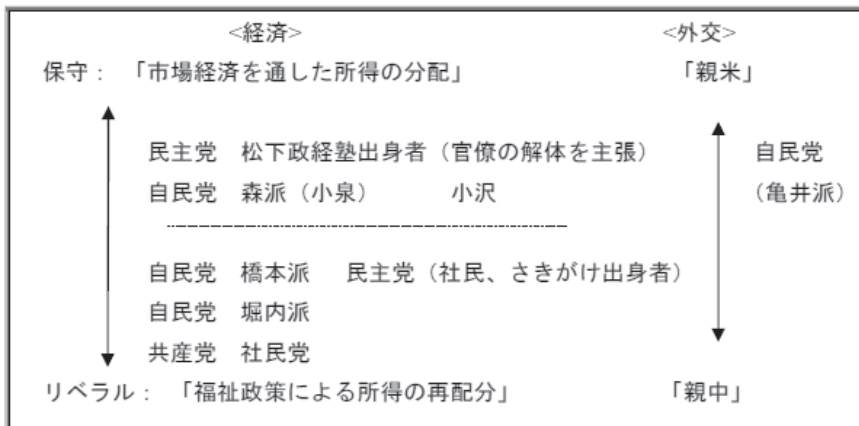
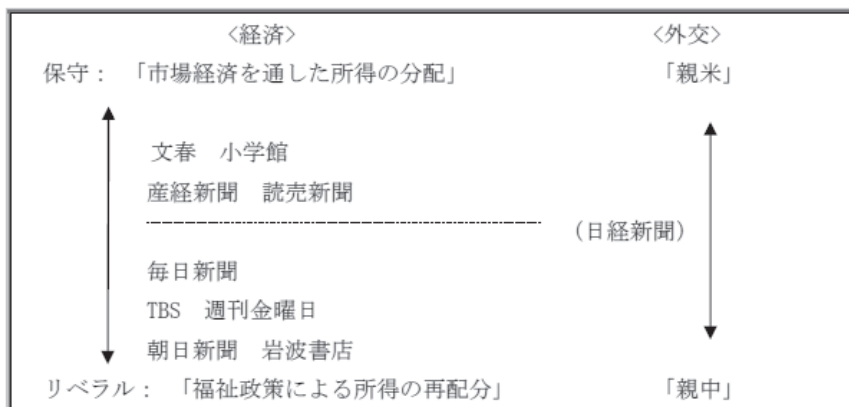


図 2. メディアにおけるスタンスの違い



SECTION 3. 特定の論題を調べる①：調べる前に

それでは次に、特定の論題について興味を持ち、リサーチをする場合の方法について順を追って説明します。ここでは、次の論題で具体例を示します：

This house believes that Japan should lower the age of adulthood to 18.

「*日本政府は成人年齢を 18 歳に引き下げるべきだ」

(注 2018 年現在、すでに 18 歳に引き下げが決定しています。成人年齢引き下げが実際に決まるまでは、これはよくディベートの大会で使われた論題でした。

1. 自分が既に持っている知識で考える

まずは、何も資料を使わずに、自分が今持っている知識で議論を作った場合、どのようなことが言えるか考えます。成人年齢を引き下げるとは、投票権を得ることに加えて、少年法ではなく刑法が適用される年齢、飲酒・喫煙を法的に行える年齢、また民法上で大人として結婚や商取引などの契約を結べる年齢などを一括して含みます（この程度は、新聞を読んでいれば目にする情報です）。

たとえば、この論題では以下の議論が出せるのではと思います：

[肯定側]

- ・ 政治への若者の参加が増す。
- ・ 若者が望む政策がより実施される。
- ・ 少年犯罪の厳罰化による犯罪抑止と再犯率の低下
- ・ 飲酒・喫煙などの楽しみを享受出来るようになる。

[否定側]

- ・ 若者受けをするだけで政治家の資質に欠ける候補者が選挙で選ばれる。
- ・ 少年としてではなく成人として罰せられることによる、社会更生の機会の喪失
- ・ 大人として契約を結ぶことによる害（消費者金融など）
- ・ 子どもの飲酒・喫煙を助長する。

これらの内で、主に選挙と、少年犯罪が大きな論点として出てきそうだと予想がつき、それらについて特に調べてみる必要がありそうだと分かります。

2. トピックについて概要を知る

次に、リファレンスブックと呼ばれる、百科事典的な資料を用いて基礎知識を得ます。まず図書館に置いてある、またはディベーターが各人持つておくべき紙の資料では以下があります：

○ リファレンス資料① 紙類

(1) ディベーター用の資料集

「日本の論点」(毎年、11月下旬から12月初頭にかけて刊行される)

「Pros & Cons」 (帰国生向け ISBN: 0415195489)

「The Deatabase Book」 (帰国生向け ISBN: 0972054162)

(2) 一般向け資料

「現代用語の基礎知識」「朝日キーワード」「Imidas Special」など

(3) 高校の「政治経済」や「公民」の資料集

これらのうち、まずディベーター用の資料集から、該当する論題についての解説が無いか探してみます。毎年、社会で論争になっている事柄について賛成と反対の双方の論者からの寄稿を掲載している「日本の論定」を確認する場合は、過去数年分遡って調べて下さい。最新の巻には載っていないくても、近年話題になっているトピックであれば、過去数年のうちのいずれかに関連する小論が記載されていることもあります。

英語の資料である「Pros & Cons」と「The Deatabase」では、そのまま主要な論題について肯定側と否定側の双方の意見が記されています。これらの資料集を読むときには、特に各項目末の参考・引用文献一覧を見て下さい。より深く知るためには、次に何を読めば良いかを知る手がかりになります。ただし、この2つは帰国生向けの資料と思って下さい。

次に、一般の人向けの資料です。網羅的な百科事典として、2006年までは「Imidas」「知恵蔵」「現代用語の基礎知識」の3種類が毎年11月頃に出版されていましたが、現在では「現代用語の基礎知識」だけが刊行されています。よりコンパクトな資料集として、「朝日キーワード」や、時事問題の解説に絞って毎年刊行されるようになった「Imidas Special」などがあります。ネットに散乱している知識を寄せ集めて何かを知ろうとするよりは、まずはこれら、読み手に伝わりやすく簡潔に整理された資料集に目を通す方が効率的でしょう。

最後に、高校の授業でも配られる社会科の資料集です。上に挙げた本を新しく買わなくても、それら資料集で十分役に立ちます。大学生のディベーターの中には、わざわざ新しく購入して使っている人もいます。

○ リファレンス資料② インターネットのサイト

(1) ディベーター用の資料集

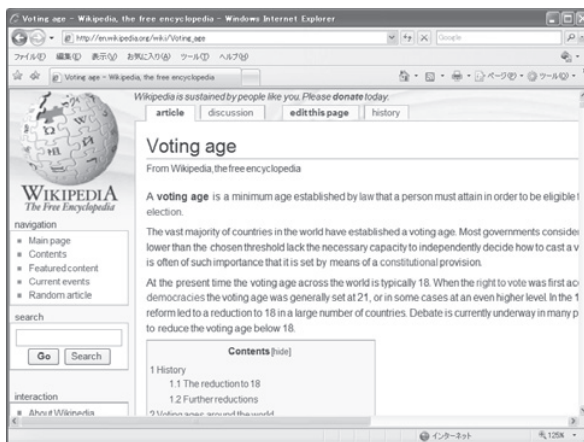
「On-line 版 Debatatabase」 <http://www.idebate.org/>

(2) 一般向け資料

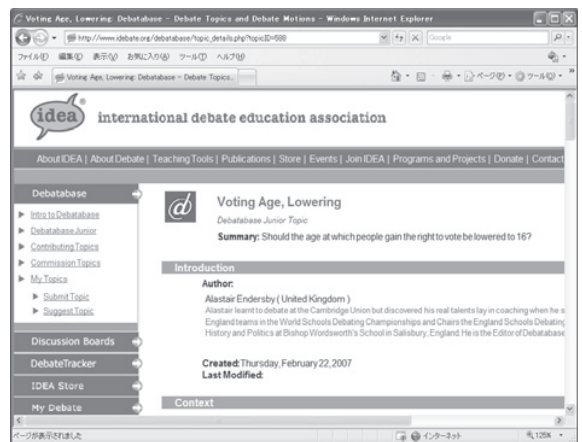
「Wikipedia (日本語版、英語版)」

次に、インターネットから利用できる資料です。先ほどの Debatatabase のインターネット版を覗くと共に、Wikipedia の日本語版と英語版を探してみてください。死刑制度や裁判員制度など、ディベートのトピックでは、日本語版と英語版共に内容が充実しています。

【Wikipedia “Voting Age”】



【Debatatabase “Voting age, Lowering”】



これらを読めば、日本での成人年齢引き下げ論議は、安部内閣時に成立した「日本国憲法の改正手続きに関する法案」で、18 歳以上に投票権を与えると規定されたことで大きく取り上げられるようになったと分かります。公職選挙法なども改正し、18 歳以上が国政選挙でも投票できるようになるまでは、憲法改正のための国民投票でも、20 歳以上に投票権を与えると附則 3 条にあります。各国の動向を見れば、ベトナム戦争や学生運動が盛んであった 1970 年代に、欧米諸国で 20 歳から 18 歳に引き下げられ、現在では世界の 160 カ国以上での成人年齢が 18 歳になっていると分かります。さらにイギリスでは、投票権の与えられる年齢を、18 歳から 16 歳に下げるか否かという議論が起こっているとも分かります。

以上のリサーチは、図書館にいれば 30 分～1 時間で終わります。これまでの作業で、その論題の背景知識は十分に得られました。普通のリサーチであればこの程度でも十分かもしれませんが、証拠を集めて試合をする必要があったり、またリサーチの発表会で報告する場合は、もう少し調べる必要があります。

SECTION 4. 特定の論題を調べる②：資料集め

1. 新書本を探す

まずは、日本語の新書を探してみましょう。新書本は、5～6 ドル程度のお金を払えば手に入る、世界でも他にほとんど類のない安価で便利な資料です。新書本を検索するには、以下のサイトが役に立ちます：

「新書マップ」 <http://shinshomap.info/>

これは、国立情報学研究所のプロジェクトで 2004 年から運用の始まった、各社の新書本を一括して検索できるサイトです（現在は NPO 法人「連想出版」が事業を引き継いでいます）。こちらで検索した本の中から、興味のある物を公共図書館、学校の図書館で探してみましょう。

【新書マップ検索結果「少年犯罪」】

The screenshot shows the website 'shinshomap.info' with the search results for '少年犯罪' (Juvenile Crime). The page layout includes a header with the site name and a search bar, a main content area with a list of books and articles, and a sidebar with additional search options.

8. 少年高齢化社会

テーマ: 少年犯罪

少年犯罪の実態と社会の反応について書かれたものをはじめ、少年法による審理・裁判の問題点、被害者、加害者の立場の解説。犯罪と少年の心理や精神について触れたものなどがある。

新書リスト | 非表示 左から

- **少年たちはなぜ人を殺すのか**
キャロル・アン・デイヴィス 著；浜野アキオ 訳 - 文藝春秋, 2008.4, 428p. - (文春新書；632)
- **少年犯罪魔罰化 私はどう考える**
佐藤幹夫, 山本誠司 共編著 - 洋泉社, 2007.6, 248p. - (新書y；174)
- **少年事件に取り巻く：家裁調査官の現場から**
藤原正範 著 - 岩波書店, 2006.2, viii, 212p. - (岩波新書；新赤版 995)
- **少年犯罪の深層：家裁調査官の視点から**
藤川洋子 著 - 筑摩書房, 2005.5, 205p. - (ちくま新書；534)
- **少年犯罪：ほんとうに多発化・凶悪化しているのか**
鮎川潤著 - 平凡社, 2001, 217p. - (平凡社新書；080)

Also in **日本の司法**

● **少年犯罪の深層：家裁調査官の視点から**
藤川洋子 著 - 筑摩書房, 2005.5, 205p. - (ちくま新書；534)

● **少年犯罪：ほんとうに多発化・凶悪化しているのか**
鮎川潤著 - 平凡社, 2001, 217p. - (平凡社新書；080)

● **不良少年**
いつの時代にも子どもたちがいる不良少年にこそ世紀末イギリスを考察する。少年の側面からとら

● **犯罪と犯罪殺人、企業犯罪**
なぜ繰り返すのかの姿容。さらにか、インターネット犯罪について。

● **日本の司法**
日本の司法の歴史の超精密司

公共図書館、大学図書館であれば Web OPAC (オンライン蔵書目録) で必要な本を所蔵しているかどうか調べられますので、あらかじめ確認してから本棚に行きましょう。また、新書本を購

入する場合、最近出版されたのでなければ普通の書店では見つけるのに苦労します。その場合は「amazon.co.jp」や「bk1」といったオンライン書店か、紀伊国屋書店か丸善といった、各店舗の在庫状況をインターネット上で検索できる書店を利用すると良いでしょう。

成人年齢引き下げのResearchの続きとして、「少年犯罪」で検索したところ、12冊出ました。簡単な内容紹介と出版年などの書誌情報を踏まえ、図書館に行って手に取る数冊を決めます。

2. 新聞記事を探す

次に、新聞記事を探す場合です。日本語の新聞記事は、各社とも過去数カ月分は無料でインターネット上から検索出来ますが、それ以降であれば有料のデータベースを利用する必要があります。通う高校や大学の図書館、または公共図書館からその有料データベースを使えば一番なのですが、何らかの事情でその契約がされていないか、自宅のパソコンから過去に遡って調べたい場合には、以下の英字新聞のアーカイブが役立ちます：

- Japan Times (1999年から) :
<http://search.japantimes.co.jp/search5.html> (1999年から)
- The New York Times (1851年から) :
<http://www.nytimes.com/ref/membercenter/nytarchive.html> (1851年から)

それぞれ無料で全文検索出来ます。資料を翻訳する手間を考えれば、こちらをメインで使っても良いでしょう。

3. 雑誌記事・学術論文を探す（日本語）

次に、雑誌記事を検索する方法を紹介します。日本国内で出版された一般向けの雑誌記事、そして特に大学紀要などの学術雑誌に掲載された論文を探す場合は、以下のデータベースを使います：

国立情報学研究所 CiNii(論文情報ナビゲーター): <http://ci.nii.ac.jp/>

「少年犯罪」で検索した結果、807件の記事・論文が見つかりました。こちらで見たタイトル、著者、そして掲載された雑誌名を参考に、関連のありそうな論文を図書館で探すこととなります。また、いくつかの論文は、CiNiiからそのままPDFファイルで入手することが出来ます。

インターネット上で一般に公開されていない学術論文に関しては、大学図書館を利用しなければほぼ入手は難しいと思います。大学図書館が利用できない場合は、公共図書館、または高校の司書の方に相談してみてください。紹介状を書いてもらえば、利用できます。

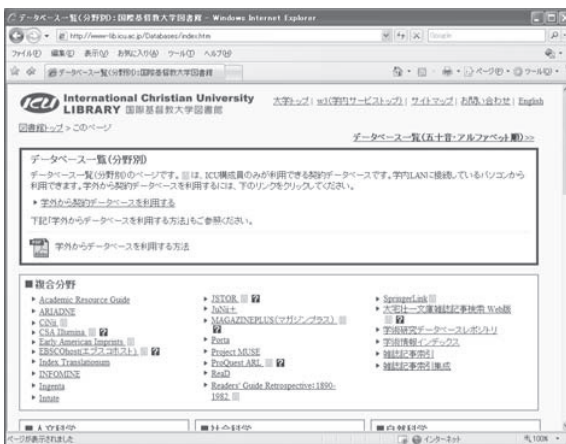
【Cinii(サイニー)検索画面】



ただし、こちらのデータベースで論文を探すよりも、どれか1つ関連する論文を見つけ、その論文で引用されている論文、そしてその著者の別の論文をまた読んでいく方法が、検索画面を見つめ続ける探し方よりも効率が良いでしょう。そのためにも「日本の論点」をまず開いてみて下さい。「日本の論点」には、各トピックについて、参考文献が載っています。

また、論文のより詳しい検索方法に関しては、各大学図書館のホームページを一読してみてください。例えば、国際基督教大学図書館のホームページには、各データベースへのリンク集があります。それらの中には、契約をしていなければ利用できないものもありますが、一般に公開されているものもあります。

【国際基督教大学図書館ウェブサイト】



【亜細亜大学図書館ウェブサイト】



また、図書館を利用した資料の探し方について、亜細亜大学付属図書館のウェブサイト内の、「図書館の達人への道」というページがとても参考になります。統計や雑誌記事など、必要な情報の種類ごとに、その入手方法と利用すると便利なデータベースが紹介されています。

- ICU Library: <http://www.lib-icu.ac.jp/>
- 亜細亜大学付属図書館: <http://www.asia-u.ac.jp/lib/index.htm>

4. 雑誌記事・学術論文を探す（英語）

高校生の段階ではまだ必要はないかもしれませんが、英文の雑誌記事を探す方法を紹介します。英語の文献を探す場合は、大学図書館で各分野のデータベースを検索し、電子ジャーナルとして利用可能であれば PDF ファイルをダウンロードするか、紙媒体で所蔵されていればコピーすることになります。ただし、まだ調べ方に慣れていない場合は、インターネット上で、「Google Scholar」を利用してネットで公開されている論文を 1 つ見つけ、そこで引用された物をまた読み進める方法が現実的かもしれません。

Google Scholar を使って、“Voting Age”そして“Juvenile Crime”で検索した場合、無数に検索結果がありました。それらの内から自分の知りたい情報を含んだ論文を探すのは、経験があるかもしれません。もし頼める相手がいれば（例えばその分野を勉強している大学生の知り合いか友人、または大学の先生）、いくつかの論文を紹介してもらうのも良いでしょう。

5. 学術書・一般書を探す

ディベートのリサーチの為に、日本語にしる英語にしる、学術書を読むことはかかる労力・時間を考えればあまり現実的ではないと思います。本 1 冊を書くには相当の労力が必要で（例えばこのディベートの教科書を作成するのにさえ、数年かかっています）、含まれている情報も古いものになっています。また、研究者は著書よりも、論文を書くことに重きを置きます（大抵の学術書は、発表した論文を再編集して 1 冊の本にしています）。これらの理由から、リサーチの為に学術書を読むことはあまりお勧めできませんが、以下では簡単に探し方を説明します。

基本は、これまでに読んだ論文の中で引用されていた物の中から選んでください。引用もされないような文献では、あまり価値のある情報が含まれていないと思います。また、英語の図書では、Amazon.com を使ってみてください。例えば、“Voting Age”で検索すれば、学術書と一緒に、何冊か一般向けの本が見つかります。書評を参考に、読んでみたい本を見つければ、大学図書館で所蔵されていないか探してみてください（購入する場合は、同じ本を日本の Amazon.co.jp で探して購入するのが確実です）。大学図書館が利用可能であれば、その大学図書館の OPAC（オンラインで検索できる所蔵図書の目録）で探してください。もし所蔵していなければ、国立情報学研究所の、NACSIS Webcat か、Webcat Plus という日本中の大学図書館の蔵書を検索出来るデータベースを利用します(<http://webcatplus.nii.ac.jp/>)。

大学生以外の方が大学図書館を利用する場合には、所蔵を確認した上で、前述の通り公共図書館から紹介状を書いてもらう方法が確実です。他にも、筑波大学や東京学芸大学などの国立大学、亜細亜大学などの私立大学では、学生以外の一般の方にも閲覧を許しており（図書館によっては「18 歳以上」などの制限がありますが）、ネットで利用条件を確認した上で試してみるのもよいでしょう（知り合いの卒業生に頼んでしまうのが、一番手っ取り早いのですが）。

SECTION 5. 調べた後ですること

ここまで、資料を調べる方法を紹介しましたが、単に調べるだけでは情報の海に溺れてしまいます。雑誌や論文の山を前にして、途方にくれないためにも、リサーチには明確なゴールを設定しておく必要があります。以下では、そのリサーチを通じて達成すべき目標を説明します。

1 議論の証拠をメモする

ディベートのためのリサーチの基本は、予め大まかに考えた議論の証拠となる情報だけを探して、それぞれある程度数が揃ったらよしとします。もちろん、調べているうちに、新しい議論を思いつくかもしれません。その場合は、始め作った議論の候補をリバイスして、より良いものにして下さい。

2 リサーチした成果を発表する

次に、調べた物を整理して誰かに発表して下さい。発表では、次の3点を説明して下さい：

- 1) 論題の背景（基礎的な知識に加え、なぜこの論題が今大切なのか）
 - 2) 論題に関する肯定側と否定側の大まかな議論
 - 3) リサーチした結果見つかった証拠

関連してお勧めなのは、ディベートを始めたばかりの人に古典的な論題についてリサーチさせることです。各人に1つずつ論題を割り振って、週に1回程度の頻度で発表会を開きます。先輩は、後輩の集めた知識がどうディベートの試合で活かせるのか、また過去の試合経験から他にどんな観点、議論があり得るのかアドバイスします。誰かに伝えることで、改めて知識を整理し、また単に調べただけでは得られない新しい発見を、発表後のディスカッションから得ることが出来ると思います。

◇ まとめの課題

本テキスト巻末の論題一覧表から、古典的な論題を1つ選び、リサーチ発表の準備をして下さい。かける時間は、事前のブレインストーミングに20分、インターネットだけの調査で30分、図書室に行って雑誌・論文記事も利用してもう30分、そして1時間使って発表の用意をして下さい（簡単なA4用紙1、2枚のハンドアウトを作って下さい）。リサーチは続けようと思えば、際限がありません。この様に時間を区切って、発表準備をしてみてください。

【参考】 ロールプレイ「日本人はどうして？」

今回は、以前紹介した日本人と外国の人のロールプレイ課題の追加です。1人の人が日本人、もう1人は留学で日本に来た外国の方を演じます。その外国の方は、日本で暮らし始めてみて、不思議なことを幾つか目にしました。それで、これから日本人の友達に質問をしてみます。日本人役の人は、質問に答えて下さい。外国人役の人は、中途半端な説明では納得せず、さらに食いついて下さい。質問は以下から1つ選んで下さい。

Topics

- (1) “Why do Japanese people always ask for my blood type?”
(どうして日本の人は、私の血液型を聞くのですか)
- (2) “How can Japanese people stand commuting in a train which is so crowded?” (どうして日本の人は、あんなに混んだ電車で通勤・通学するのに耐えられるのですか)
- (3) “Why do Japanese people change the color of their hair into brown?”
(どうして日本人は、髪の毛の色を茶色に変えるのですか)
- (4) “Why do Sumo wrestlers have to be naked to fight?”
(どうしてお相撲さんは、試合をするのに裸でないといけないのですか)
- (5) “Why are there so many vending machines in Japan?”
(どうして日本には、こんなに多くの自動販売機があるのですか)

これら英語を話す練習は、英語の授業外でも、相手をしてくれる人が1人いればいつでもどこでも可能です。授業外でも練習をしてみてください（ちょっと恥ずかしいかもしれませんが）。

